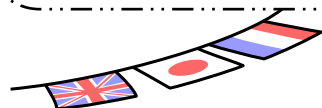




のぞみ 希 望

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita/> TEL771-0649



心を一つにした杉リンピック

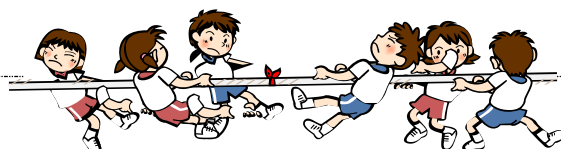
学校長 村上 裕子

5月21日、晴れ渡った空のもと、平成28年度杉リンピックが開催されました。今年のスローガンの「心を一つに、優勝めざし 杉リンピック」から大きく二つのことを実感しました。

第一に、会場 みんなが杉リンピックを通して心を一つにすることができたことです。子どもたちは、各色の応援団長を柱にして熱い応援合戦を繰り広げました。参観された皆様も一つ一つの演技や競技にあたたかい声援をおくってくださいました。PTA・地域競技の「綱引き」やふれあい競技の「破鈴」「玉入れ」にもご参加いただきました。パトロールや受付、最後の片付けなど教職員や子どもたちでは手がまわらない所まで支えていただきました。いろいろなご協力があったからこそ、みんなで杉リンピックをつくりあげることができたと思っています。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第二には、一人ひとりが全力を出しきっている姿が輝いていたことです。演技を終えた子どもたちが「あつという間だった。」とか「また、踊りたい。」とつぶやいた一言や満面の笑顔からは満足感が伝わりました。一瞬も気が抜けない組体操は当日がいままでで最高の演技でした。途中で転んでしまった子もいましたが、みんなゴールをめざしてかけぬけました。一生懸命に係の活動をしたり、下学年を思いやりする高学年も杉リンピックを支えていました。全力を出したからこそのがすがしさを覚えた子どもも多かったと思います。この経験をいろいろな場面で生かしてほしいと願っています。力を尽くし、大きく成長した子どもたちを認め、たくさんほめてあげてほしいです。

最後に6年生の杉リンピックを振り返った言葉を紹介します。



笑顔と涙の杉リンピック

6年

私の人生最後の杉リンピックは、うれしいのと悔しいのが入り混じったものでした。

私が一番がんばったのは、組体操ではなく、障害物走でもなく、騎馬戦でも、大玉送りでもありません。「応援」です。私は応援団でも何でもありませんが、応援だけは応援団、いや団長なみにがんばりました。今回の杉リンピックで、「思いはとどく」ということを実感しました。団長を中心に私たちが応援すればするほど優勝に近づいていきました。午後の部になり、得点板を見ると、赤組が一位でした。二位の黄組とも24点の差があり、私は優勝を確信しました。

しかし、現実はそのあまくはありません。騎馬戦や大玉送りでは、結果が残せず、閉会式になってしまいました。私は「優勝しているのではないか」と心のどこかで思っていました。あまり期待しないようにしていました。

そしてついに朝礼台に得点発表の係が立ち、順に得点が発表される中、手を合わせて優勝を願いました。得点板を見た瞬間、体の力がふっと抜けました。私は6年間、一度も優勝したことがありません。6年間の優勝のチャンスを全て取り逃がしたのです。そう思うと、とても悔しくなり、涙があふれそうになりました。でもなんとかこらえて杉リンピックを終えました。

教室にもどって、団長や応援団を見ていると涙が出てきました。でもそれは優勝できなかったという悔し涙だけでなく、やりきったという嬉し涙もまじっていました。優勝という結果は残念ながら残せませんでした。家に帰って見つけました。それは応援グッズのペットボトルです。応援をがんばったせいか、何か所かへこんでいます。このペットボトルは私の一生の宝物です。